

## お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第28弾をお届けします。

(シリーズ担当：R.I.)

### 28. 昔と今の米作り

農林水産省のHP「子どものための農業教室」に、「くらべてみよう昔といまのコメ作り」というコーナーがあります。江戸時代（元禄）、昭和30～40年代、平成元年～（現代）と農作業の変遷が絵や写真で示されていて分かりやすいので、これを引用しながら、稲作の流れを説明します。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	● <small>なえ</small> 苗づくり						●乾燥・もみすり
●田おこし	● <small>しろ</small> 代かき	● <small>かんり ひりょう ぼうじょ</small> 草取り・水の管理・肥料・防除					● <small>いねか だっこく</small> 稲刈り・脱穀
	● <small>ひりょう</small> 肥料 ● <small>いね</small> 田植え						

図 28-1 米作りの作業暦



図 28-2 江戸時代（元禄）の田おこしと代かきの状況

図 28-1 米作りの作業暦を見てください。これは稲作の一連の作業工程を大変大雑把に示したものにすぎませんが、稲作の流れを把握するには便利と思います。まずはこの暦にしたがい、①田おこし・代かき、②苗作り、③田植え、④草取り・水の管理・肥料・防除、⑤稲刈り・脱穀、および⑥乾燥・粃摺りの6つの作業工程について、順を追って稲作の流れを見ていきましょう。

## ① 田おこし・代かき

最初は、田おこしと代かきです。

鍬（くわ）や鋤（すき）を使って田を起こし、代かきをします。このとき、肥料も撒きます。牛や馬を使うこともあります。



図 28-3 昭和 30～40 年代の代かき風景  
人力で、あるいは牛や馬を使って田を起こします。そろそろ耕耘機（こううんき）も登場します。手前の人、肥料を撒いています（昭和 36 年 長野県松本市）



図 28-4 現代の田おこし（耕耘）風景  
トラクターを使って田を起こします。  
（平成 2 年 岡山県岡山市）



図 28-5 現代の代かき風景  
やはりトラクターを使って代かきをします。  
（平成 2 年 岡山県岡山市）

（出典）図 28-1～5 農水省 HP 子供のための農業教室  
[http://www.maff.go.jp/j/agri\\_school/a\\_kome/index.html](http://www.maff.go.jp/j/agri_school/a_kome/index.html) から引用

関連する用語の解説：

【耕起】

- 耕起作業には、播種や移植に適した土塊の大きさに土を砕くということ以外に、前作物の残渣を土の中にすき込んで腐熟を促進させる、土の中に空気を入れて乾燥を促進し、有機態窒素を無機化させる（乾土（かんど）効果）等の意味があります。
- 水稲単作地帯では、秋の稲刈りの後に一回程度荒起こしを行い、春の代かき前にもう1～2回耕起を行います。
- 稲・麦二毛作地帯では、麦刈り後に藁（わら）のすき込みを兼ねた耕起を1～2回行います。

【代かき】

- 代かき作業は、田植えや湛水直播作業の前に耕起した水田に水を入れて行う砕土均平作業です。
- 通常、一回目の代かき作業は「荒代かき」と称し、砕土を目的に行います。
- 二回目以降の代かき作業は、均平や稲株、残渣物の埋没を目的として実施します。

【畦塗り(あぜぬり)】

- 代かきが水田に湛水した水の縦浸透を防止する働きがあるのに対し、畦塗りは水の横浸透を防止する重要な作業です。

(みんなの農業広場 <https://www.jeinou.com/benri/rice/2008/05/010930.html> から引用)